

校番	44	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	慶徳 克二	全日制	本校
----	----	-----	------------	------	-------	-----	----

1 ミッション

- ・主体的に学び続け、地域とグローバル社会に貢献する人材を育成する
- ・広島県内唯一の介護福祉士養成高校として県立高校等の福祉教育をリードする

2 ビジョン (使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

【目指す生徒像】

- ① 主体的に学び続け、学びを人生や社会に生かすことができる課題解決能力を身に付けた生徒が育っている。
- ② 人を大切にできる心 (福祉の心) を持ち、他と協働して新しい価値の創造に挑戦する生徒が育っている。

【目指す学校像】

- ③ 学校の情報を積極的に発信し、生徒が地域やグローバル社会への貢献活動に参加することにより、保護者や地域から信頼される学校となっている。
- ④ 全教職員で組織的な取組を徹底する中、互いの職能成長が図られる学校となっている。

3 次期学校経営計画策定のための SWOT 分析

I 平成27年度～平成29年度の分析

	ポジティブ	ネガティブ
内部要因	<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内唯一の介護福祉士養成高校として福祉科を持つ。→2つの類型を設け、多様な進路に対応可能となっている。 ○校外実習による実践力の育成が図られている。 ○福祉系就職者の就職先での高評価。 ○組織的な生徒指導の取組。いつでも面接が受けられる服装指導と挨拶励行。 ○丁寧な個別指導を実施。 ○学校独自の3年間を通じた面接検定指導の実施。 ○就職希望者の地域社会への就職率100%を維持。 ○部活加入割合は高い比率を保っている。 ○野球部及び和太鼓部の活動が盛んである。 ○黒高レンジャーの活躍が継続。 	<p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ○高い志や目標を持って国公立大学等へ進学志望を持つものが少ない。 ○家庭学習時間の不足。 ○提出物を期限内に提出できない生徒が多い。 ○センター試験の受験者数・私立大学を含め一般入試にチャレンジする生徒数が少ない。 ○遅刻を繰り返す生徒が固定化する傾向にある。 ○生徒の自己肯定感が低く自信のない発言や挨拶に消極的な生徒がいる。 ○普通科と福祉科において校務運営上の連携不足の点がみられる。
外部要因	<p><機会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成26年度から始まった福祉系高校のスタートと県からの支援。 ○スウェーデン王国アルマス校との姉妹校提携と交流。 ○東広島学園都市として広島国際大学と東広島市との連携。 ○福祉科と地域、社会福祉協議会との連携交流が盛ん。 ○豊田高校との学校間連携による生徒会行事・進路指導行事等の活性化。 ○和太鼓部の演奏が地域、広島県レベルで認められ公演依頼が多くある。 ○CCRCによる黒瀬地域まちづくり構想に参加。 	<p><脅威></p> <ul style="list-style-type: none"> ○過去の黒瀬高校への低評価の存在。 ○家庭での学習習慣や規範意識が確立できていない。 ○福祉科の存在と内容について中学校での認知度が低く、主体的な学校選択になっていない。 ○介護福祉職への社会的評価・福祉科志望者数が少ない。 ○学習意欲の低い一部の入学者がいる。 ○通学のための交通機関の利便性。(福祉科は寮の設定により解消)

II クロス SWOT 分析からの策

<p><<積極的取り組み>></p> <ul style="list-style-type: none"> ○組織的かつきめ細かい生徒指導体制を維持しつつ、授業規律の確保と学力向上を図る。 ○生徒の主体的な学びを促進するため、授業づくりにより積極的に取り組む。 ○福祉科介護福祉士類型と総合福祉類型の教育内容を充実させるとともに、積極的な広報活動に努める。 ○生徒のボランティア活動への参加をより進めること等により、学校全体で「福祉の心」を育てる。 ○生徒の部活動加入率を維持しつつ、生徒の日常的な部活動参加率を高める取組を行う。 	<p><弱点強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上のための工夫を組織的に行う。 ○生徒・保護者の希望を実現できる計画的・組織的な進路指導と、進路実績を積み重ねて地域の信頼を得る。 ○遅刻者減少に向け学校全体でより組織的に取り組む。 ○得意分野での自己肯定感の向上のため1年生部活動全員登録と部活動の日の実施。部ごとの挨拶運動・美化活動を実施する。 ○広島国際大学の寮の活用について、より積極的な利用について検討する。
<p><特色化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○広島県内唯一の福祉系高校として発展させその特色をより深化させる。 ○福祉の就職率の高さ、人とかわるやりがいと専門性をアピールし、県下に広く広報することを強化するとともに、福祉科の存在意義を高める教育内容を創造し、県内から多くの志願者を集める。 ○スウェーデン王国アルマス校との生徒の国際交流をより進めグローバルな視点を持つ生徒を育成する。 ○黒瀬地域まちづくり構想に参加し、生徒の地域貢献への意識を高める。 	<p><長期目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○普通科 80 名、福祉科 40 名の計 120 名の卒業生を出す。 ○問題行動件数を減らす。 ○遅刻者数を年間 100 回減少させる。 ○家庭学習時間を最低 2 時間行う生活習慣の確立。 ○国公立大学進学者毎年 5 名以上。 ○就職率 100%の継続。 ○介護福祉士国家試験合格率 100%の継続。 ○介護技術コンテスト全国大会出場継続。

4 目標の設定(平成 30 年度～32 年度)

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等
		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	
1 主体的に学び続け、学びを人生や社会に生かすことができる課題解決能力を身に付けた生徒が育っている。						
生徒の基礎学力を向上させる。	1年・2年のペーパー主催【進路マップ】4月から9月にかけて3教科のA・B判定者の増加，D判定者の減少	—	各年度1年・2年の「4月データ」と「9月データ」を比較して， ・【A・B判定者】5%増加 ・【D判定者】10%減少			教務部 進路指導部
進路希望を実現させる。	生徒の進路第一希望実現率	—	95%	95%	95%	進路指導部
	1年生3級以上資格取得者割合 2年生3級以上資格取得者割合 3年生3級以上資格取得者割合	1年 15% 2年 57% 3年 81%	1年 70% 2年 75% 3年 80%	1年 70% 2年 75% 3年 80%	1年 70% 2年 75% 3年 80%	
	3年生全員の介護職員初任者研修修了	100%	100%	100%	100%	
福祉科生徒の介護職員初任者研修を確実に履修させ、進路希望を実現させる。	総合福祉類型者は3年生で3級3つ以上の資格(サービス接遇3級・調理3級・漢字3級等)を取得させる。	85%	100%	100%	100%	福祉科
	介護福祉士類型者の介護福祉士国家試験合格への力を付ける。	国試合格 85.7%	国試合格 100%	国試合格 100%	国試合格 100%	
2 人を大切に作る心(福祉の心)を持ち、他と協働して新しい価値の創造に挑戦する生徒が育っている。						
生徒が自律的規範意識を身に付けるように取り組む。	年間皆勤者率	—	25%	28%	30%	生徒指導部
	月間遅刻者数	—	月平均 50人	月平均 45人	月平均 40人	生徒指導部
教育相談を推進する。	困ったことがあった時に校内で相談しやすい状態になっていると感じる生徒の割合	—	50%	60%	70%	生徒指導部
生徒が部の活動に誇りを持ち、主体的、計画的に部活動を行う。	部活動加入率	89.5%	75%	80%	90%	特別活動部
	部活動単位で挨拶運動や美化作業をおこなう日数を増やす。	挨拶 65 美化 13	挨拶 65 美化 15	挨拶 70 美化 15	挨拶 80 美化 15	特別活動部
生徒会中心の自主的活動の機会を増やす。	集会や放送により、生徒会執行部が全校生徒に対して話をする機会を増やす。	8回	10回	12回	15回	特別活動部
	行事や部活動へ参加した生徒の満足度	100%	95%	98%	98%	全教科分掌・特別活動部
黒高レンジャーの活動を活性化し、生徒の自己肯定感を高める。	黒高レンジャー参加者の満足度	—	70%	80%	90%	特別活動部
豊田高校との学校間連携を推進する。	行事等へ参加した生徒の満足度	—	95%	98%	98%	全教科・全分掌
3 学校の情報を積極的に発信し、生徒が地域やグローバル社会への貢献活動に参加することにより、保護者や地域から信頼される学校となっている。						
広報活動を充実させるとともに、中学生・保護者から選ばれる学校をつくる。	オープンスクール参加者で、本校を受検すると回答した生徒の割合	普73% 福90%	普75% 福90%	普75% 福90%	普75% 福90%	総務部 福祉科
	校内の行事の様子や生徒の声をホームページに掲載する。	20回	20回	20回	25回	総務部
	ホームページの閲覧者数	1.5万件	2万件	2万件	2万件	
地域に貢献するボランティア活動を充実させる。	普通科生徒のボランティア活動参加者数	延べ 45人	延べ 60人	延べ 70人	延べ 80人	特別活動部
	福祉科の学習でのボランティアや地域活動貢献回数と参加者数	延べ 135人	延べ135人以上	延べ140人以上	延べ145人以上	福祉科
海外姉妹校との生徒交流を推進する。	アルマス高校生徒との交流を通じた満足度	—	80%	85%	90%	特別活動部
4 全教職員で組織的な取組を徹底する中、互いの職能成長が図られる学校となっている。						
学校経営計画に基づいた教育活動が実施され、自己目標が達成されている。	教職員アンケート及び業績評価面談による。	—	肯定率 70%以上	肯定率 80%以上	肯定率 90%以上	管理職

	生徒が深く考え、主体的に参加する授業になっている。	教職員アンケート、保護者アンケート及び生徒授業アンケートによる。	—	肯定率 70%以上	肯定率 80%以上	肯定率 90%以上	総務部 ・教務部
	業務改善の促進により、働き方改革が進んでいる。	定時退校日に勤務時間 30 分以内に退校する教職員の割合	—	50%	60%	70%	管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 主体的に学び続け、学びを人生や社会に生かすことができる課題解決能力を身に付けた生徒が育っている。			
生徒の基礎学力を向上させる。	1年・2年のベネッセ主催【進路マップ】4月から9月にかけて3教科のA・B判定者の増加, D判定者の減少を目指して, 次の取組をする。 ・主体的な学びを促すための授業改善を行う。 ・毎日基礎学習のトレーニング等を行う。 ・平日の家庭学習期間が2時間以上になるよう課題等を提供する。 ・生徒に学習の仕方を指導する。	毎年, 1年・2年のベネッセ主催【進路マップ】4月から9月にかけて3教科のA・B判定者の5%増加, D判定者の10%減少を目指して, 次の取組を行う。 ・各教科の学習内容と課題発見解決学習とを連動させる。 ・生徒が自分の課題を踏まえて, 自主的に家庭学習を進めている。	教務部 進路指導部
進路希望を実現させる。	・生徒個々の進路希望の正確な把握をし, 担任・学年会・進路指導部間の連携を迅速かつ綿密に行う。 ・進路に応じて放課後補習, 長期休業中補習を実施する。(全学年) ・3級以上の資格に挑戦させる。 ・家庭学習を習慣化させるため, 各教科からの課題や小テストなどが充実するよう連携を図る。	・学年会との連携を深めるとともに, 「個人カルテ」の活用を図り, 目線を上げた目標を設定させる。 ・各学年会にJSTからの講話を実施し, 組織としての進路指導力の向上を図る。 ・資格を取得することで進路の幅が広がるように取組む。 ・家庭学習充実させ, 一般入試で大学へ進学できる生徒を増加させる。	進路指導部
福祉科生徒の介護職員初任者研修を確実に履修させ, 進路希望を実現させる。	・福祉科目の知識・技術試験の到達目標を70%以上とし, 学習や練習への段階的な指導を行う。 ・介護職員初任者研修認定試験に早期に合格させ, 進路実現に向けて指導を充実させる。	卒業時3年生全員を介護職員初任者研修認定試験修了者とし, 全員の進路希望を実現させる。	福祉科
	・類型選択のための進路指導の充実を図る ・介護福祉士類型選択者の介護福祉士国家試験合格を目指し, 課題や模試に取り組みさせる。	・福祉類型選択会議において適切な選択を行う。 ・介護福祉士国家試験の対策指導を行い, 国試模試の判定をB以上にして, 全員合格させる。	
	総合福祉類型者はサービス接遇3級・調理3級の受験指導を行い, 漢字・数学・英語・情報等の検定への挑戦を促し受験指導を行う。	総合福祉類型選択者は3年間で3級以上3つ以上の資格(サービス接遇3級・調理3級・福祉住環境コーディネータ3級・漢字3級等)を取得させる。	
2 人を大切にする心(福祉の心)を持ち, 他と協働して新しい価値の創造に挑戦する生徒が育っている。			
生徒が自律的規範意識を身に付けるような心を育てる指導に取り組む。	生徒指導規程に基づき, 組織的な指導の徹底を図るとともに, 基本的な生活習慣を確立させつつ, 月毎の遅刻者数を公表することで, 皆勤者の増加に結び付ける。	組織的な指導の徹底を図りながら, 生徒自らの進路を意識させ, これからの自分の在り方を明確にさせ, 自ら皆勤を目指す生徒が増えている。	生徒指導部 各学年会
教育相談を推進する。	保健だよりにより毎回周知する。	困ったときに誰に相談すればよいか生徒が分かっている状態になっている。	生徒指導部
生徒が部の活動に誇りを持ち, 主体的, 計画的に部活動を行うことができる。	1年生は, 原則1学期間全全部活動を体験させる。 挨拶運動や美化作業など部活動単位で活動する場を増やし, 部への帰属意識を高めるよう指導する。	部の活動に誇りを持って主体的, 計画的に部活動を行うことができるよう指導する。	特別活動部
生徒会中心の自主的活動の機会を増やす。	70周年記念行事に向けて生徒会が中心となって学校を盛り上げる気運を育成する。	執行部生徒及びHR委員に生徒の代表であるという自覚を促し, 責任感を持たせると同時に, 自己肯定感を高める。	全教科分掌・特別活動部
黒高レンジャーの活動を活性化し, 生徒の自己肯定感を高める。	教室掲示, 全体への呼びかけに加え, 個別に呼びかけるなど生徒のボランティア活動への参加意欲を高める。特に, 普通科生徒のボランティア活動参加者を増加させ, 様々な世代と関わらせることで自己肯定感を高める。	全ての生徒のボランティア活動参加者を増加させ, 様々な世代と関わらせることで自己肯定感を高める。	特別活動部
豊田高校との学校間連携を推進する。	行事への参加, 部活動での交流を積極的に行う。	両校の生徒が主体的・日常的に交流を図るよう計画する。	全教科・全分掌 (教務・総務・進路指導)
3 学校の情報を積極的に発信し, 生徒が地域やグローバル社会への貢献活動に参加することにより, 保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。			
広報活動を充実させるとともに, 中学生・保護者から選ばれる学校をつくる。	オープンスクールの内容をより充実させ(福祉科の魅力, 寮生活のこと, 部活動のこと等)本校を受検したいと思う生徒の割合を増加させる。	中学校への広報活動を活発にすることで, より多くの生徒に受検したいと思わせる。福祉科ではより広域からの進学があたりまえとなっている。普通科では地元中学校の生徒の進学があたりまえとなっている。	総務部 福祉科
	ホームページに学校の様子や生徒の声を随時掲載することにより, 生徒・保護者及び中学生とその保護者に, 本校への理解を深めてもらう。	本校の特徴を理解して入学してもらい, 入学後も生徒・保護者から信頼される学校となっている。	

	地域に貢献するボランティア活動を充実させる。	普通科生徒にボランティア活動参加を促し、多くの生徒にボランティアを体験させる。	主体的にボランティア活動に参加する生徒が育っている。	特別活動部
		福祉科の学習でボランティアや地域活動を展開し、福祉科生徒の延べ参加者数を増加させる。	黒瀬高校福祉科の存在が地域からより評価されるように活動する。	福祉科
	海外姉妹校との生徒交流を促進する。	グローバルな視点を持った生徒を育成するため、海外交流の内容を再検討し、交流の活性化を図る。	海外交流生徒委員会を作り、アルマス高校との連携を継続的に行い、全校生徒に還元できる内容を発信できている。	特別活動部
4	全教職員で組織的な取組を徹底する中、互いの職能成長が図られる学校となっている。			
	学校経営計画に基づいた教育活動が実施され、自己目標が達成されている。	学校経営計画に基づき、それにリンクした自己目標を設定し、常にそれを意識した教育活動に取り組んでいる。	学校経営計画のPDCAサイクルが、それぞれの分掌において主体的に行われ、目標値達成に向けて工夫改善が図られている。	全ての分掌等 全ての教職員
	生徒が深く考え、主体的に参加する授業になっている。	「学びの変革」アクション・プランの趣旨を踏まえて、全ての授業において、生徒が主体的に参加する状況となるよう、授業内容の工夫改善が図られている。	「学びの変革」アクション・プランの趣旨を踏まえた授業実践が進み、それぞれの授業が総合的な学習の時間にリンクするものとなっている。(カリキュラムマッピングの完成)	全ての分掌 全ての教職員
	業務改善の促進により、教職員の健康管理ができています。	必要な業務改善の提案をだし会う場をもつ。	効率よい学校運営がなされるよう業務を改善している。	管理職